

# 平成 25 年度第 1 回「ほっと・ほらんでいあ」報告

平成 25 年 6 月 16 日(日)13:30~15:50 実施

ゲスト「ワンニャンを愛する会」代表 敦賀秀男さん

「ワンニャンを愛する会」は平成 11 年 3 月に設立された会であり、主に犬猫の譲渡会を開催しています。平成 23 年の東日本大震災では、被災した動物の一時預かり、譲渡、物資支援も行いました。被災地の大槌町を訪問した時に、被災者に犬猫を預かることを打診したが、「こういう時だからこそ一緒にいたい」と辞退した方が多く、心の支えが必要であると感じたとのことです。

他に福祉施設などでの動物とのふれあい活動や、犬猫に対する困りごとへのアドバイスも行っており、「野良猫を拾ったがどうすれば良いか」、「高齢で施設に入所、病気で入院などのために、飼っている犬猫をどうすれば良いか」などの相談も受けているとのことです。

犬猫などの動物は愛護動物として保護される立場にあり、虐待などは法律で規制されていますが、実際に多くの犬猫が殺処分されている実態があり、それをなんとかできないかと「ワンニャンを愛する会」は活動しています。

今年の 9 月からは動物愛護管理法の改正もあり、罰則も強化され、簡単に保健所への持ち込みもできなくなるようです。動物は、生後 8 週より前に親から離されることで、社会性が身につかず、吠えたり、噛んだりと弊害があるということです。業者は小さいほど販売しやすいということで、生後 45 日の引き渡し期間(法施行後 3 年間)になったそうです。それでも譲渡会では、5~6 才の猫でも飼いたいという人が最近増えており、良い傾向だということです。

また、せっかく犬猫を保護しても、避妊、去勢手術の費用が高いことや、自分で新たな飼い主を探すことなど様々な問題があります。この現状を何とかしたいと思っている方々が集まって、小さいグループでもたくさんの方が集まることによって、大きな輪になっていき、問題が改善されていくことができるかもしれないということでした。

参加者からの相談で、近所に野良猫がたくさん増えてしまい、犬猫を好きな人、嫌いな人など様々な考えの人がいることによって、猫に対する対応が極端に違うという問題を抱えているとの質問があり、「ワンニャンを愛する会」のホームページに掲載することや、避妊手術の費用についてのお話をされました。このような問題を抱えて困っている地域も多いのではないかと思います。

今回のお話を聞いて、このようなボランティア団体が増えてくれることも大事ですが、動物を飼うということはお金がかかり、かつ責任もあり、最近では人間だけでなく犬猫の高齢化も進みいろいろ問題もあることを知り、ただ可愛いから飼うのではなく、最後まで関わる気持ちをもって飼うことを考える必要があるのではないかと思います。